

事例報告

「としま案内人雑司ヶ谷」について

小池 陸子

私たち「としま案内人雑司ヶ谷」は、豊島区コミュニティ大学主催の雑司が谷ボランティアガイド養成講座（2010年度）を修了して、2011年9月から活動をはじめました。現在会員は26名です。最初はひとり立ちしても資金がなく、パンフレットは手づくりでした。今ではトレードマークになっている半纏も、当初、区が用意してくださったのは10着のみで、ガイドをするたびに皆で着回しておりました。その後、区から補助金をいただき、全員に半纏と夏用のポロシャツが行き渡るようになりました。配布しているパンフレットも補助金で作成しました。

私たちがガイドをしている雑司が谷は、歴史と文化の香るまちです。鬼子母神堂、雑司が谷旧宣教師館、雑司ヶ谷霊園と見どころも多く、池袋から歩いて10数分、副都心線と都電荒川線があり、非常に便利です。最近は都電で来られる方が増えています。

私たちガイドの特徴は、お客様にまち歩きを楽しんでいただくために、昔の写真や江戸名所図会などを、参考資料としてお見せすることです。江戸時代の雑司が谷は、江戸の外れでしたが、江戸名所図会、歌川広重の浮世絵、雑司が谷八境などの資料が残されています。

ご案内するときは、1グループ10～15人のお客様に2人のガイドがつき、先頭がガイドをして、後ろのガイドは交通整理をしながらお客様の安全を守ります。一般ガイドのほかに、区内小学校の社会科見学のサポートも受け入れています。子どもたちは「なぜ古いものは、大切に残されてきたのか？」という学校からの大きな課題を持ってきます。鬼子母神堂では、鬼子母神、絵馬、すすきみみずくの話などを伺います。先日は、近江住職みずから子どもたちに説明してくださいました。寺院に上がるのは初めてという生徒が多く、熱心に耳を傾けていました。

子どもたちから礼状が届くと、案内をしたガイドたちも、とてもうれしく充実した気持ちになるようです。雑司が谷を訪れた子どもたちが、雑司が谷の歴史遺産を次の世代へつなげ、100年後の子どもたちに伝えてくれることが私たちの願いです。

これまでのガイドの実績として、地域の文化祭や豊島区の旧庁舎で、私たちの活動を展示させていただきました。

2014年には、日本ユネスコ協会連盟のプロジェクト「未来遺産運動」に「『雑司が谷がやがや』プロジェクト～歴史と文化のまちづくり」が選ばれましたが、その際は、雑司が

谷がやがや、鬼子母神御会式連合会、雑司が谷七福神の会、櫛並木保存会、すすきみみずく保存会、緑のこみちの会、雑司が谷ハリティ、わいわいぞうしがやの方々とともに活動に取り組みました。雑司が谷の案内処は大門のケヤキ並木参道の中ほどにあり、雑司が谷を訪れる方たちへの観光 PR の場所になっています。3年3か月で約10万人の来館者がありました。

雑司が谷の風物詩である雑司が谷七福神巡りや鬼子母神の御会式は、まちぐるみで楽しめます。法明寺の除夜の鐘と大鳥神社の初詣、茅の輪くぐりなどもあります。9月は大鳥神社のお祭りと暮れの酉の市で賑わいます。そのほか、手創り市とみちくさ市の日には若者で溢れかえります。江戸時代からの鬼子母神参詣土産は、五色の風車、麦藁細工の角兵衛獅子、そしてすすきみみずくです。そして国の重要文化財に答申されている雑司ヶ谷鬼子母神堂、東京都指定有形文化財の雑司が谷旧宣教師館、鬼子母神堂の絵馬、東京都指定天然記念物の鬼子母神の大イチョウ、鬼子母神大門ケヤキ並木があります。鬼子母神の御会式万灯練供養は、豊島区指定無形民俗文化財に指定されています。

雑司が谷は都心とは思えないほど緑豊かなまちです。皆様、ぜひ一度お越しく下さい。

(こいけ・みちこ 「としま案内人雑司ヶ谷」代表)